



XR-AI技術でヘルスケアを遠隔化

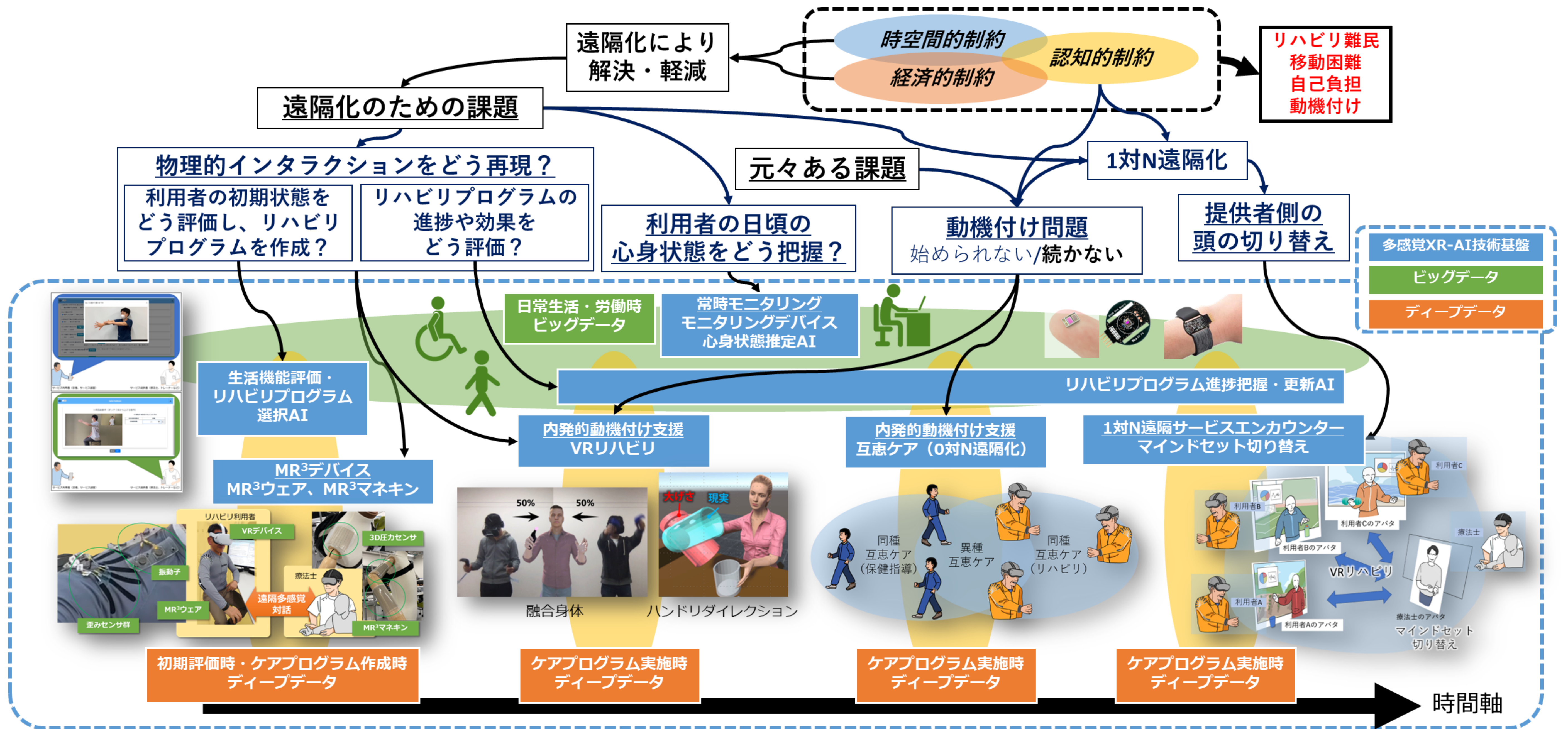
蔵田 武志, 尾形 邦裕, 金澤 周介, 今村 由芽子
佐藤 章博, 木曾 里樹, 小林 吉之, 一刈 良介, 中江 悟司

多くのヘルスケアサービスでは、時空間的、経済的、もしくは認知的制約に起因する問題群が顕在化しています。リハビリと特定保健指導を対象とした場合、それらのサービスプロセスは、ケアプログラムの作成、ケアタスクの実施、ケアプログラムの進捗把握・更新、常時モニタリングに整理されます。

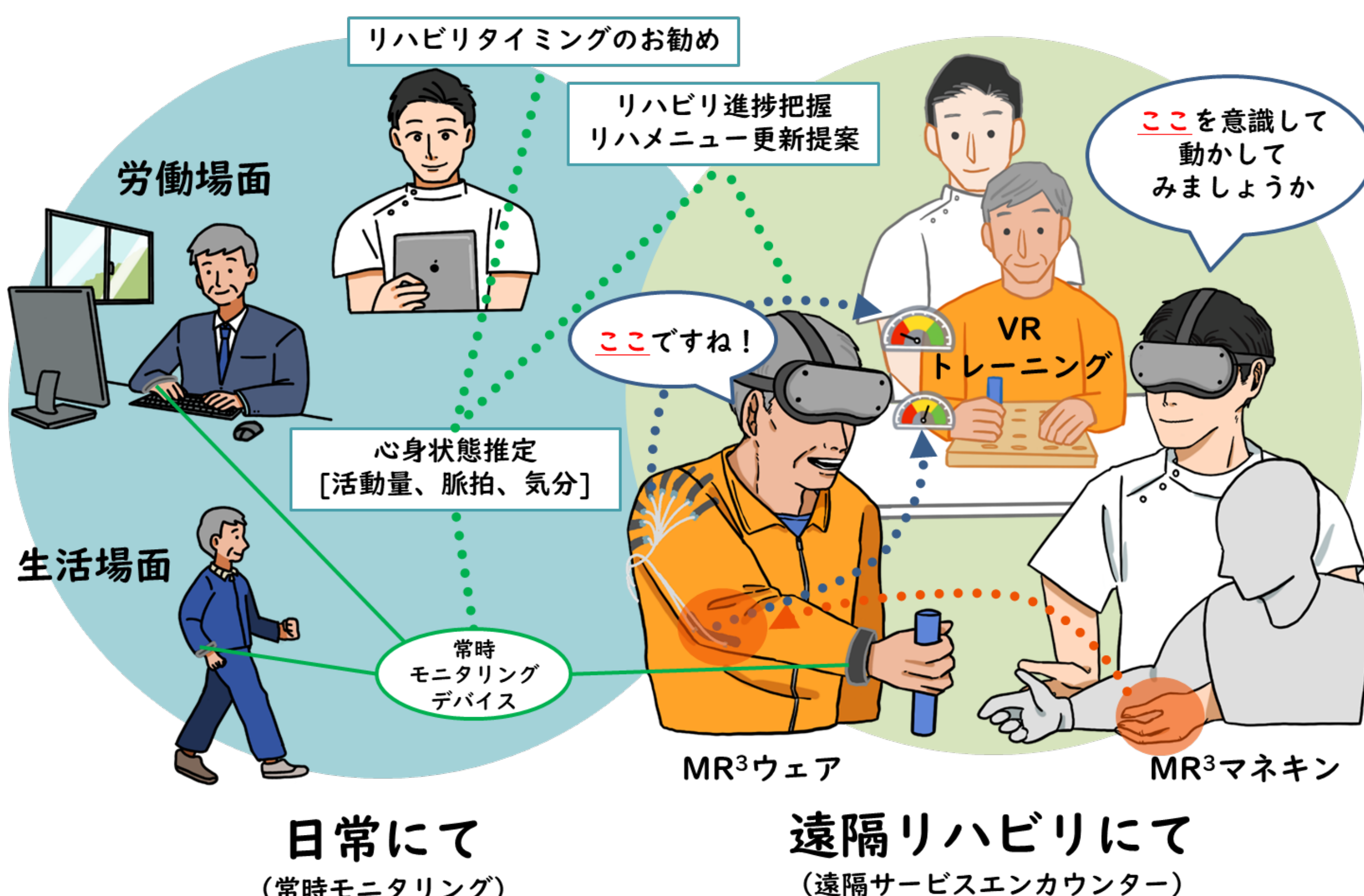
この各プロセスの遠隔化を支援するための「多感覚XR-AI技術基盤モジュール群」を構築し、当該問題群を解決・軽減することを目指しています。少数のサービス提供者と多数の利用者からなる「1対N遠隔化」で提供者が各利用者に迅速かつ適切に接するための認知的負荷軽減や、「0対N遠隔化」（提供者不在）での互恵ケアに関するフィジビリティスタディも進めています。

XR-AI: XR powered by AI、エックスレイ

MR³: MultiModal Mixed Reality for Remote Rehab、エムアールキューブ



取り組むべき課題と対応する研究テーマ



遠隔VRリハビリと常時モニタリングのイメージ



1対N遠隔化や互恵ケア（0対N遠隔化）による制約フリーなヘルスケアサービスが広がる未来

